

## 第4回 府立北桑田高等学校の在り方検討会議（概要）

- 1 日 時 平成29年10月12日（木）午前10時00分～午後11時30分
- 2 場 所 京都市京北合同庁舎 大会議室
- 3 出席者 23名  
府教育委員会 前川教育監、井上高校教育課長、  
相馬高校改革担当課長 ほか
- 4 概 要  
(1) あいさつ  
(2) 説 明  
(3) 意見交換（主な意見）

---

### ■説 明

□府教育委員会：資料説明

□北桑田高校校長：資料説明

〔活性化構想案の進捗状況〕

平成30年度選抜の変更点として、京都市・乙訓通学圏から普通科の定員の10%ではあるが受検が可能となったが、9月公表のためまだ浸透していないことから、京都市内、乙訓地域の学校の会議等で説明に努めている。希望する生徒に来ていただけるよう中学校と綿密に連絡を取りながら進めたい。8月のスクールガイダンスでは例年以上の100名を超える参加があったほか、初めて行った部活動体験では保護者を含め70名近くに参加いただいた。また、9月の文化祭はPTAの積極的なPR効果もあって、過去最高の400名以上の参加をいただけるなど高校を知っていただく良い機会になったと感じている。

普通科・森林リサーチ科の教育課程の検討であるが、特色がわかりやすいカリキュラムを検討中である。また、サテライト授業の導入は、今月21日からスタートする。今年は両学科の2、3年生の希望者中心に44単位分実施し、来年度からは全学年の進学希望者全員に対して300単位のサテライト講座を考えている。これまでの毎日の補習+αでの実施であり、交通事情等により予備校や塾に行けない生徒たちも学校で受けられるし、部活動の試合日と重なったり欠席等の場合でも別日に受けられるメリットもあるので、ぜひ進めていきたい。

学習環境・施設の整備構想についてだが、入寮希望者が昨年以上に増えており、現在、地域と相談して下宿の公募をしたところ4軒のお申し出をいただいた。うち1軒は4月からでも受入可能とのことである。併せて、近くの空家の活用でご協力いただけないかも検討している。ボルダリング施設は、ぜひ利用したいとの反響が多く、なんとか実現したく、現在設置の検討を進めている。

悠久の森・悠久の灯プロジェクトに関しては、和ろうそく存続のために本校がハゼの苗木を育てている取組が評価され、京都市から「未来の京都まちづくり推進表彰」をいただくこととなり非常にありがたい。また、近くにある長老ヶ岳の登山道整備や森林の管理なども地域とともに取組を進めていきたい。

ドローンを活用した授業では、まずドローンで上空から授業風景等を撮影したが、実際にドローンを使って何ができるか、測量や防災で使えるのかなど生徒と一緒に研究していきたい。12月にはドローン実習をさせたいと考えている。

鳥獣被害によるわな猟の免許取得についても18歳以上で希望者があれば、随時対応を検討する準備を進めている。

特色ある部活動では、先の部活動見学でもトライアスロンの選手やクライミングの選手が来てくれてPR効果があったと感じている。現在、様々な競技団体と連携、相談をしている。新たな取組として、ビームライフル射撃の体験を計画しており、

できれば部活動として取り組ませたい。これは弾の出ないレーザービームで的を射るという競技で、すでに国体競技にもなっているもので、来年からはインターハイ種目にもなる。ライフル射撃自体はオリンピック・パラリンピックの正式種目にもなっており、競技人口が少ないため上位大会にもつながりやすい。生徒が体験を通して競技で取り組んだり、狩猟免許の取得にもつながればと考えている。具体的には12月にアジアチャンピオンの方の講話や体験会を開催したいと思っている。

#### [美山分校について]

分校については、昭和23年の定時制課程の設置からスタートして、統合を経ながら昭和50年に現在の美山分校の設置となり、以降40年以上の歴史がある。地域の後継者となる人材育成を目的として、地域の多くの方々が分校を卒業されている。しかし、現在では地元からの入学者は、毎年1、2名程度である。

一方で、美山分校は口丹地域で唯一の定時制であり、「支え合い、励まし合いながら、ゆっくりじっくり学ぶ」というコンセプトで教育を展開している。学びが「主」で職業が「従」の中で4年間かけてじっくり学ぶこと、多様な生徒が分校のもつ豊かな自然と実習教科を通し、自信と自立できる力を身につけること、少人数で一人ひとりに寄り添った手厚い学習・生活・進路指導を行うことなどを実践しており、現在、退学者も欠席者も非常に少ない。少人数のため、中学校生活までで自分の役割がなかなか持てなかった生徒も含め全員が主役、運営役となって活躍できる環境がある。先に実施した体育祭でも全員によるリレーができ、非常に盛り上がった。その他、地域にご協力いただいて様々な特別活動を行っている。唯一の部活動として陸上競技部があるが、限られた時間と環境の中、毎年全国定時制通信制大会に出場しており過去には優勝、入賞を多く果たすなど頑張っている。それから、アルバイトの斡旋も学校が行っているという特徴もある。小・中学校、他の府立学校、民間企業を含め様々な機関から連携と協力をいただいている。何よりも地域の方々から、定時制の高校ということで「定高」という呼び名で親しみを持って見守っていただいているなど、本当に地域の学校として認めていただいていると感じている。農業科の野菜の苗や生産物を毎年心待ちにしてくださり、文化祭の販売では行列ができる。このように多くの方々に見守られながら安心して学校生活を送ることができる、京都府教育振興プランで言うところの、周りからの愛情や信頼、期待に「包み込まれている」貴重な場になっている。この環境により「つながる力・挑戦する力・展望する力」の三つの力をはぐくむことができるのではと感じている。

美山分校の教育は、口丹唯一の定時制高校ならではのものと思っており、働きながらじっくりと進路を考えてキャリアを身に付けたい者、学習に遅れが見られたり学習機会が不十分であったなどで、今後もゆっくり学習を続けたい者、様々な子どもがいるため、そうした子どもにとって貴重な進路選択の一つになっていると感じている。教育内容は、口丹地域に必要なものと感じているし、口丹地域の全中学校から美山分校の教育内容に期待する声をいただいている。一方で、教育の場として現在の美山分校の地が良いのかについては、様々なご意見をいただければと思っているし、口丹地域全体の課題として考える必要があると思っている。なお、体育館が耐震の関係で使えず、現在、旧南丹市立平屋小学校をお借りして、体育の授業で使う場合はタクシーに乗って移動している実情がある。また、生徒の話を見ると、分校まで1時間半ほどかけて通っている生徒もいるが、通学を苦痛に思うことはないとのことである。場所が遠くても、生徒にとっては大きな存在なのかなと感じている。何よりも地域の方々に分校の存在を受け入れていただいていることも非常に大きいと感じている。

■意見交換（主な意見） ○：出席者 ◆：府教委 ◇：進行

- ◇ 活性化構想の進捗状況について校長から報告いただいたが、取組についてさらに意見があればお願いしたい。
- 京都市・乙訓通学圏から6名という前期選抜の枠を確保されたことは前向きに進めていく上で重要だと思うが、実際にどれぐらいの生徒が志願するのか。オープンキャンパス等の感触はどうか。
- 9月公表ということで、部活動体験でも京都市の地元以外の地域から20名近い生徒が来ているが、普通科で志願できることを知らない生徒もいたことから、丁寧に説明し、ホームページでも大きく取り上げていかないといけないと感じている。参加した生徒も、普通科にするか、森林リサーチ科にするかはまた考えたいということであった。それから、特色ある部活動である自転車競技部、硬式野球部、それからトライアスロンやクライミングに興味を持った生徒もおり、そうした部活動と勉強の両立を目的として選んでもらえるよう今後も説明していきたい。これまでも「普通科は受けられないのか。」との問い合わせは何件かあったので、引き続き中学校にも説明していきたいと考えている。
- ◇ 美山分校に関し、現状と役割について説明があったが、ご意見があればお願いしたい。
- 10月2日に美山町関係者で構成する「北桑田高校在り方懇話会」を開催した。北桑田高校に対する支援や美山分校に関して話し合ったのだが、そこで出された美山分校に対する考えや要望を述べたいと思う。  
美山分校は、働きながら学ぶ定時制高校として、卒業生の多くが過疎化の進む美山地域に残り、地域振興に貢献されてきた歴史がある。美山分校は、美山町の住民、とりわけ卒業生にとって母校として大切な存在である。近年、様々な要因で美山地域からの入学生は減り、他地域から通学してくる生徒が多くなってきている。多くの生徒が遠方から通学していることから、通学が楽になるよう移転すれば良いという考えもあるが、分校は、大きな集団で学ぶのが苦手など様々な課題のある生徒に対し質の高い教育を行っており、美山の豊かな自然の中で学ぶことは大きなプラスになると考えている。このことは、整然とした登下校の様子や退学者、欠席者が少ないことから伺えるのではないかと。また、生徒が育てた野菜の苗が地域で販売されているが、地域の方々には毎年楽しみにしているなど地元で根ざした学校であると言えると思う。たとえ移転してもこれまで分校が築いてきた実績をつくるには、相当長い時間と多くのエネルギーが必要になると考えており、地元としても、引き続き美山地域に定時制高校を存続いただくよう強く要望する。
- 昭和の40年代後半には二つの昼間定時制の分校が残っていたことを記憶している。一つが知井分校、もう一つが北部分校で、この2校がそれぞれ地域の就学保障の役割を担っていた。当時の様々な経済状況、社会背景の中で定時制に通う生徒がたくさんいたことも事実である。それぞれ農業科・家政科を設置していたが、その教育環境は不十分であった。例えば、両校とも隣接する小学校にグラウンドや体育館を借りたり、授業も小学校校舎の教室の空き時間を利用していた。特に部活動では、当時軟式野球が非常に盛んであったようだが、小学校の狭いグラウンドで行う、しかも小学生が下校してからようやく活動できる状況であった。こうした環境を抜本的に改善しようと、2校を一つにして新しい昼間定時制を設置する話が浮上したと聞いている。その大きな流れをつくったのが当時の在校生で、後輩に充実した教育環境のもとで学習や部活動ができる場を提供したいという熱い思いが、運動を進

めた原動力であったようである。当時の生徒は保護者と協力して、働きながらも夜や休みの日に署名活動を行い、昭和48年、現在の右京区京北の笠トンネルの開通式に知事が来た際には学校設置について直訴したとのことである。その後、美山町や地元の方から土地確保の協力もあり、昭和50年に昼間定時制の美山分校が誕生した。設置に関わった生徒をはじめとする関係者の熱い思いと、この思いをしっかりと受け止められた京都府、そして地域の高い教育力により成し遂げられた特異の分校の誕生と言える。以来、地域の中学生在が美山分校に通い、整備された環境のもとで就学し多くの成果を生み出し、多くの卒業生を輩出してきた。また、卒業生が地元に残り、地域の担い手として地域づくりに貢献されていることも忘れてはならないと思っている。資料にもあるように、現在は美山分校が誕生した当時の状況とは異なり、少子化の影響もあって地元生徒が減少しており、地域の中学生の進路選択として美山分校の現状は率直に厳しいと思う。しかし、現在美山分校で実践されている教育の様々な点が評価され、口丹地域、京都市の一部地域から以前とは異なる性格の就学が伸びている現状や、園部駅から学校へのアクセスが充実している点を考慮しても、「口丹地域の昼間定時制」としての役割が高まっていることを強く感じている。農業、家政科の実学を通じて生徒をしっかりと教育できる環境は、多様化する社会を生き抜くこれからの子どもたちにとって貴重な場といえる。また、この地域に学校が存在することが高齢化や過疎化が進行する美山地域にとって、地域振興、活性化を促す上でとても重要だと考える。先人たちの熱い思いは脈々と受け継がれていると思うので、美山分校のさらなる前進を期待したい。

- 美山分校の機能を持つ学校は、個別に支援のいる生徒の進学先の一つとして必要ではないか。以前は通っていた生徒が後に地域を支える人材として活躍していたが、そこから少し中身は変わってきているとは思うが、生徒たちにとっての学び場という点では重要と思うし、実際にきちんと卒業している状況もある。授業参観等に行かせてもらおうと、落ち着いた環境の中で本当によく勉強している姿が見られるため、そうした部分は大事にしたいと思っている。また、家庭の事情等で働きながら学ばなければならない子どももいることから、その子たちにとっても大事な環境だと思う。

課題としては、広域から通学している生徒が多く、利便性のことは考えなければいけないと思う。南丹市では美山～園部間は比較的接続バスもあり、時間はかかるが手段は用意されている。しかし、特に京丹波町、和知方面からは、美山中学校の下で1時間ほど乗り換えバスを待っている生徒も見かけるため、何か良い手立てがあればと思う。地域に根ざしている高校として地域の方も文化祭など楽しみにしておられるというのはそのとおりだと思うし、地域の活性化に関わる部分もあるため、地域の思いを汲み取っていただくことが必要ではないかと思う。

- 子どもが美山分校に通っている。中学生時は十分に学校に通えていなかったが、分校に入ってからは体調不良の時くらいしか休まなくなった。通いながらアルバイトをして家計を助けてもらったりもした。また、中学校での勉強が遅れていた部分もあったが、美山分校は少人数のため先生に親身に教えていただき、今は成績も良くなってきており、ありがたく思っている。人が多いところではなかなか落ち着いて勉強できない子であったり、いじめのようなことを受けた子どもでも、美山分校では楽しく学校生活を送っていることがすごく印象的で、そういう子どもたちの学び場になれるすごく良い学校だと思う。

ただ、生徒数がすごく少ないという課題もある。現在、4年生は3人しかいない。また、周囲から話を聞いていると、美山分校自体を知らない人がすごく多いと感じており、学校の周知が十分でないのではないかと思うこと、また、間近で見ている分にはすごく良い学校でも、外部からはわかりにくい部分もあるので、もう少し開かれた学校にしていってもらおうことが、生徒に来てもらう一番の近道ではないか。

たまたま分校の近くの駐在所の人と話す機会があり、文化祭の話をした際に、そういうイベントの案内は最低限しか教えてもらえていない、と言われた。もっと地域の方にイベント等にも来てもらって学校を知ってもらうのが良いのではないかと。

また、現在体育館が使えず学校としての機能が果たせていない。そういう高校に生徒が来たがるか疑問に思うところがあるので、その対応もしていただけるとありがたい。最低限環境の整ったところで学校生活を送ってほしいと思う。

- 京都市内も含めて、定時制に通いながら働くという意味合いは随分と薄れてきており、資料にあるように、学びが主で職業が従であるという形にどこの定時制もなってきたのではないかと感じる。もちろん、働きながら学ぶ生徒もいるが、主は学びであるというように大きくシフトしてきている。京都市内では不登校がすごく増えているが、定時制にどのような生徒たちが通っているかを考えた時、不登校であった生徒の学び直しの場合であったりとか、個別の支援が必要な生徒、そうした子どもたちの学び場としての学校が求められていると思う。京都市内では定時制の数が限られているため、通信制に通う生徒がものすごく増えている。昔の通信制はレポートを書いて出すだけといった形であったが、現在は、実際に学校に行き学ぶスクーリングを行うなど随分と形態が変わっていると思う。京都市内における定時制、通信制の役割を担っているのが、京北・美山地域でいえば美山分校になるのだと思う。今後、まだこうした子どもたちは増える傾向にあるため、その学び場としての美山分校のあり方を追求するというか、むしろそのことを前面に出したカリキュラム編成を考えても良いと思う。

いわゆる適正規模は考えないといけないと思うが、かといって美山分校が1学級30~40人の学校になれば良いかというところではないと思う。少人数だからこそできる教育内容があると思うので、適正な規模ということも大事なテーマになってくると感じている。

- ◇ 本日欠席の方から事前にいただいているご意見を紹介する。
  - ・ 美山分校には文化祭に子どもと参加したことがあり、地元にある学校として地域との関わりの深いものを感じている。現在の通学事情からすると今の場所にあるのが良いかどうか考えるところはあるが、定時制として果たしている役割は口丹地域に必要と考える。仮に移転等となる場合については、地元との十分な協議をしていただきたい。
- ◇ 北桑田高校の本校と分校の関わりについて、何か学校間で連携されているようなことがあれば紹介いただきたい。
- 距離が離れており、なかなか生徒同士の交流は難しい。教員間の連携はできていると思うが、物理的に難しい面もあるのが現状である。先ほど分校の取組のPRに関する意見も出されていたが、文化祭や体育祭等の様々なイベントについてはより早くPRすべきだと思っているが、生徒募集に関しては、口丹地域については中学校回りをする中で分校のことを理解いただいていると思うし、PRをすればもう少し生徒数増も考えられるかもしれないが、現在の分校の施設状況を鑑みると、生徒数が増えれば今の教育の維持は難しくなってきたり、教室数不足も生じてくるので、規模については難しい問題だと感じている。
- 美山に行く際、園部発のバスに乗る分校の高校生を見かける。聞けば、JRからバスに乗り換えて通学に1時間半から2時間かかるとのことであった。4年もの間それほど長い時間をかけて通学する、しかもほとんど中途退学する生徒もいないというのは大変なことだと思う。単に高校卒業資格を取りたいという思いだけで4年間も続くものか、この学校には子どもたちを惹きつける魅力があるのではないかと

感じる。色々なファクターがあると思うが、一つは美山分校の置かれている場所、あるいは環境が中学生時に厳しい状況で過ごした子が自分の気持ちを休め、取り戻せるようなファクターがあるのではないか。これはすごく大事なことで、友だち、先生との関係、そして周りの環境、そういう中で子どもが本来の姿に戻って社会へ自立していく。学力面、あるいは集団生活への適応面でより課題を抱えている子どもたちを4年間かけて自立させるという役割を果たすすごい力をこの学校は持っていると思う。文部科学白書によれば高校等進学率は現在ほぼ99%であり、ほとんどの子どもが高校に通っている。そうすると当然、学力面でも学びへのモチベーションにおいても様々な生徒が高校に通うことになる。その子どもたちにきちんと教育していく体制をつくっていくことが公教育の任務だと思う。例えば、口丹地域において美山分校がなかったら、窮地に追い込まれてしまう子どもたちが必ずいるだろう。そう考えると、この学校は99%の数値を実現する上ですごく大事な役割を果たしている。これは大事にしていかなければならないと思う。

もう一つ、中学生時に辛い思いをしてきた子どもが立ち直るきっかけとして、環境の変化がある。思い切って今まで自分が生活してきた環境と全く違うところで生活し学ぶ経験を与えることは非常に大事なことだと思う。学校から話を伺うと、「この学校は地域に支えられている。地域が非常に温かい目で見守ってくれる。だから子どもの教育に徹底して打ち込むことができる。」とおっしゃっていた。これは地域による支えが成果を上げている定時制高校の例だと思う。仮に、園部や亀岡地域にこのような定時制高校をつくるとした場合、これだけのものをつくるには大変な時間とエネルギーを要すると思う。それだけ長い期間をかけてこの学校はベースがつくられたと思う。ぜひとも口丹地域全体の高校教育がどのような役割分担をしていくのか、そういうマクロな見方で美山分校を考えていただくことが大事だと思う。美山、京北だけで考えるのではなく、この高校がどういう役割を果たしているかを考え、全ての子どもに後期中等教育の機会を保障する理念がなければ、その発想は出てこないと思う。京都府の全ての青少年に後期中等教育を保障していく営みの一環としてこれを位置づけていく理念を持ってほしい。

教育学には田園教育思想というものがある。都市の中では本当の教育はできない、田園、農村の中でこそ理想の教育はできるというもので、自然と向き合いながら子どもたちを自由に伸び伸びと育てていこうという考え方である。この考えからすると、分校や本校の自然環境をより積極的に人間形成の中に取り込み、具体的な教育の形として作り上げる視点もあって良いのではないか。2020年から大学入試制度が改革され、高校にふさわしい共通の学力をきちんと育てようという流れがある一方で、教育の質を考えた場合、一人一人の子どもに対応した個別的な指導をしっかりと行い、社会へ送り出すことも考えなければならない。この二つが課題になっていると思う。共通の学力をしっかりと育てつつ、多様な子どもへの対応として個別指導、特別な学習支援が必要だと思う。それがこれからの教育の流れになっていくと思う。今まで以上に分校の教育の質を高めるため、高校の内容をどう変えるか、地域社会はそれをどうサポートすれば良いかを考えていく必要があると思う。また、美山分校には非常勤を含めて専門性の高い教職員が20名ほどいるが、これは美山地域にとって大変な知的財産であると思う。その方々が地域のためにどういう役割を果たしていただけるのかも考えてみる必要がある。地域から大切にされているのは分かるが、地域と学校との壁を無くし、知的財産を地域のために役立てていく道がつけられても良いのではないか。前回会議に出たようなコミュニティスクールという考えを美山分校に適用していった場合、もっと地域と学校との連携を密にしていくことも必要ではないかと思う。

- 確かに分校の生徒数の減少は顕著であると思うが、33名の生徒がこの美山分校を選んで学んでいる、という現実に着目をするならば、いかに生徒数が減ろうが、生徒たちにとって大切な後期中等教育の学びの場であると考えている。口丹地域には

北桑田高校本校を含めて6つの高校があるし、また、丹波支援学校もある。その7校に進学せずにこの美山分校を選んで進学している生徒があり続ける限り、存在は必要不可欠と考える。現に在籍の33名中14名が南丹市立中学校の卒業生徒であり、貴重な進学先だと受け止めている。たしかに平成24～28年までの5年間で周山・美山中学校を卒業した生徒の分校での在籍割合は20%で他地域の生徒が80%であることから、地域の子どもにとっての通学の利便性の良さは、他地域の子どもにとっての通学の不便さにつながっていることを考えると、口丹全体として立地上の課題について十分に検討する必要があると思うが、今の地域だからこそ豊かな自然環境の中でじっくりと学べるということも十分勘案することが必要ではないか。この点は、府教育委員会の責任と権限に基づいて適切に判断いただきたいと思う。

また、本校との関係についてであるが、現在、分校の体育館が使えないため旧平屋小学校の体育館を活用いただいている。本校との距離が15キロ離れているといってもこの地域では車移動なら、そう多くの時間は要しないのではないか。そうであるならば、もっと分校の生徒が本校を学び舎として意識できる学びの交流も検討されるべきではないか。立地上の問題で今後美山分校の距離が遠くなるとするならば、今こそ現在の本校と分校との近い関係をより有利に活用されることが必要ではないかと考える。もちろん生徒のニーズが違うため、本校に行くことを必ずしもよしとしない生徒もいると思うが、学びの場を共有しながら地域社会全体で北桑田高校の教育を推進するという観点に立つならば、今だからこそ本校と分校の交流は大事にされるべきではないか。

- 前回会議で紹介した南丹市バスダイヤの大幅な見直しの件について報告させていただく。現在、北桑田高校から美山地域へ帰る夕方の便は京北病院前から3便ある。今年7月に北桑田高校と市営バス担当部署とでダイヤについて打ち合わせをさせていただいた。高校からは、土曜日のバスダイヤの充実、JR日吉駅からの直行便の検討、それから定期代の割引制度の創設を望む意見があった。現在、議論中であるが、引き続き調整、検討していきたいと考えている。また、来年度、運賃体系を見直す予定をしている。今年12月の市議会に関連条例を提案し、可決いただければ来年4月以降の通学費負担がかなり減ると考えている。

また、美山分校の全校生徒数は少数であるが地域に大変根付いた学校である。分校近くの道の駅「美山ふれあい広場」にある「ふらっと美山」では苗や野菜など生徒が作ったものを販売してくれているが、お年寄りや観光客に人気で喜ばれている。生徒は販売店で一生懸命働きながら学業にも励んでおられる。そういう姿を目の当たりにして、少子高齢化、過疎化が進む美山地域にとって、分校の存在というのは重要だと認識している。また、市としても少額ではあるが分校に助成させていただいているところであるし、引き続き予算要求していきたいと考えている。

#### [閉会あいさつ]

お忙しい中お集まりいただき、貴重なご意見を多数いただいたことについてお礼申し上げます。本校、そして美山分校がどうあるべきかについて地元地域の方々、保護者、学校関係者の方々、行政関係者の方々にお集まりいただいて計4回ご意見を賜うことができました。今後はこのご意見を十分踏まえつつ、口丹全体での議論の場を設定してしっかりと検討してまいります。これから少子化が進む中、様々な課題をクリアしながら口丹地域、そして京北・美山地域の教育をどう進めていくのかを検討していきたい。これまでのご協議に感謝を申し上げて、閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。